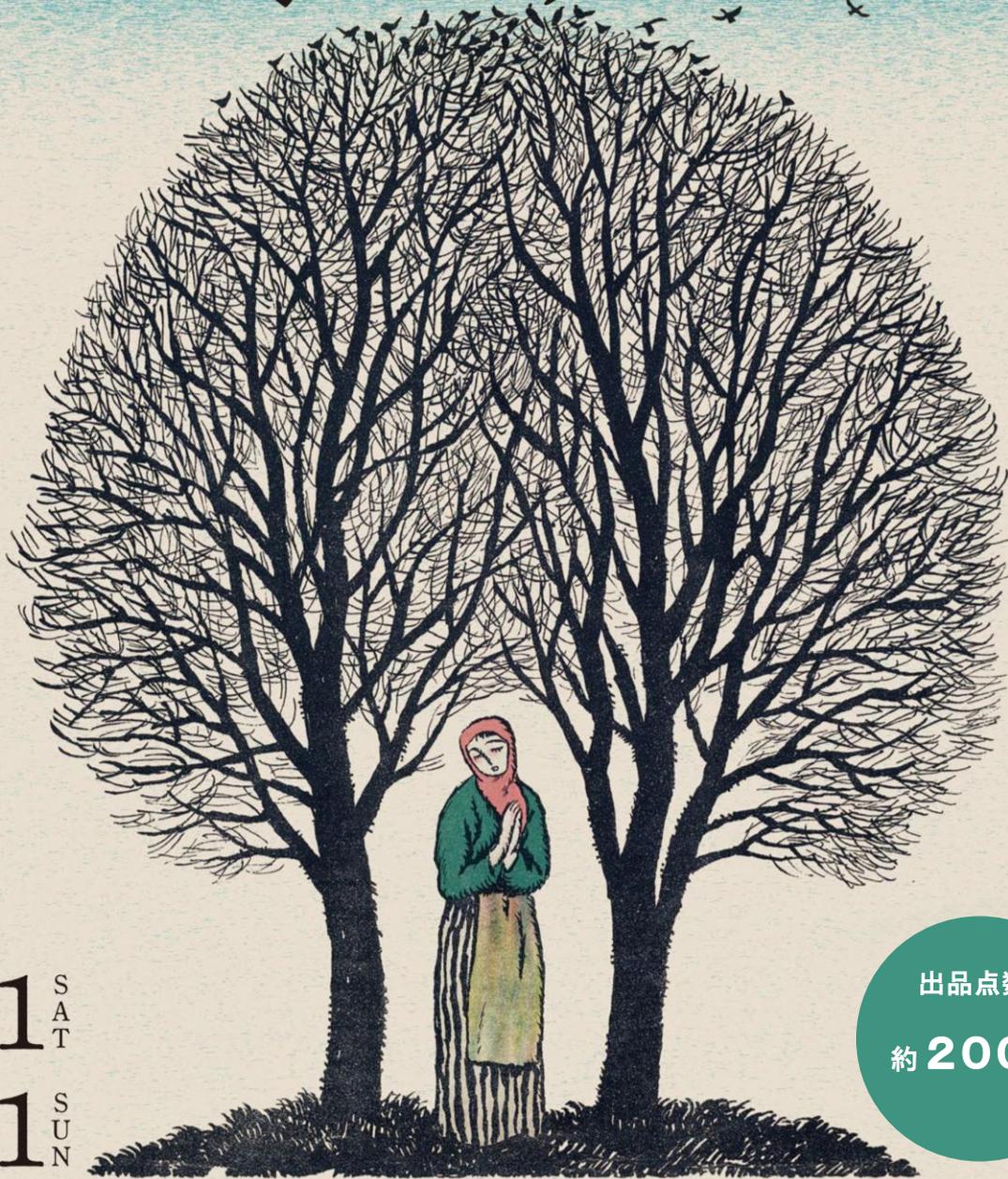


# 竹久夢二 愛と想い

作品に託したメッセージ



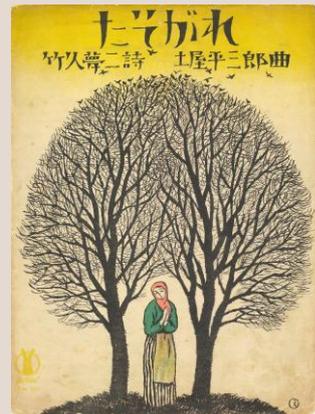
2025  
2.1 SAT  
6.1 SUN

出品点数  
約 200 点  
(予定)

◆悲しみを描いてのコーナーでは、セノオ楽譜「たそがれ」をはじめ、夢二作品にしばしば表現された感情・悲しみの表現をイラストレーションと詩から読み解く。

① セノオ楽譜「たそがれ」 1922年(大正11)

竹久夢二美術館



竹久夢二美術館 企画展プレスリリース

## ご挨拶

大正ロマンを代表する詩人画家・竹久夢二(1884-1934)は、自身の理想の女性像を投影した「夢二式美人」を描き、明治末期から人気を集め、当時の流行や人々の審美眼にも大きな影響を与えました。また、生涯に数多くの恋愛を重ねた夢二は、愛の喜びや別離の悲しみなど様々な経験を制作に反映し、時を超えて心を打つ作品を残しました。

本展では、夢二式美人の表現や夢二の恋愛模様を中心に、子供や社会へ向けたメッセージにも焦点を当て、夢二の眼差しを紹介します。

## みどころ

- 1 夢二の言葉やエピソードより制作の動機に注目し、作品を読み解く
- 2 夢二式美人コーナーは途中で全作品を展示替えし、会期中約80点を展示
- 3 夢二の友人で、版画家・装本家の恩地孝四郎没後70年記念コーナーを設置



夢二との交流を約30点の作品と資料で紹介

### ◆恩地孝四郎(1891~1955)

夢二との出会いから画家を志した恩地は、内面を見つめた版画や詩を制作し、日本近代版画の発展に尽力した。また、幅広い分野のブックデザインを生涯に数多く手がけ、装本家としても注目を集める。

### ②恩地孝四郎宛葉書 1915年(大正4)

明治末~大正期、二人は書簡を頻りにやりとりした。夢二は書簡に芸術論や悩みを記すことも多く、恩地は生涯夢二のよき理解者であった。

## 展示コーナーと広報図版紹介

広報図版をご使用希望の場合は、「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、FAX またはメールで当館にお送りください。

### ◆望郷と少年時代



### ③朝 1912年(明治45)

16歳で上京した夢二は、少年時代を懐古し、母子の姿を繰り返し描いた。優しく子に寄り添う女性には、夢二自身の母への思慕の念も現れている。

### ◆社会を見つめる



### ④無題(『直言』コマ絵) 1905年(明治38)

夢二は新聞や雑誌への寄稿を通じて、権力への反発を絵で表現したこともあった。

関東大震災や戦争、労働問題などを取り上げた夢二の社会的な作品で構成する。

### ◆恋人と思い出

### ⑤さくら湯 明治末期

妻や恋人を描いた作品と遺品を展示し、恋多き人生を歩んだ夢二のエピソードを紹介する。

「さくら湯」は、夢二の妻となった他万喜(たまき)がモデル。



### ◆夢二式美人の表現

女性の曲線美を活かしたポーズに、愁いを帯びた表情の「夢二式美人」は、明治後期から大正期に社会現象となる程人気を博した。

「夢二式美人の表現」は、コーナー全体を中間展示替える。

前期 2/1(土)~3/30(日)、後期 4/2(水)~6/2(日)

### ◆子供達へ贈る



### ⑥『夢二画手本1』 1912年(大正元)

子供達が心豊かに成長できるよう、夢二は自身の息子を参考に物語や詩を書き残した。子供を対象に出版された著作本は、生涯で20冊以上に上る。

### ◆恋のうた

逢ふた時いふことを  
独言して  
はつかしや  
この夜ごろ

詩人画家・夢二の力量が存分に発揮され、絵と余白に書き込んだ詩に繊細な恋心が表現された。

### ⑦この夜ごろ 昭和初期



### ⑧(前期) 王華街夜曲 大正前期 (後期) 舞妓 1914年(大正3)頃

※前後期で展示作品が異なります。

前期期間中の画像使用申込には2点1セット、後期期間中は「舞妓」のみお送りします。

### ◆植物への愛着



### ⑨『雑草』函のための図案(原画) 1927年(昭和2)

『雑草』は夢二も会員であった短歌の同人「春草会」の歌集。函には草の葉を思わせる色と質感のレタリングで、本のタイトルがデザインされた。

# 展覧会概要

## 展覧会名称

竹久夢二 愛と想い 作品に託したメッセージ

## 主催及び会場

竹久夢二美術館

## 住所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

## Tel

03-5689-0462

## 会期

2025(令和7)年2月1日(土)~6月1日(日)

## 休館日

月曜日(ただし2月24日、4月28日、5月5日開館)、2月25日、4月1日(火)休館。

## 開館時間

午前10時~午後5時  
(入館は4時半までをお願いします)

## 入館料

一般 1200円 大・高生 1000円  
中・小生 500円  
※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

## 交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び  
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分  
JR上野駅 公園口より徒歩20分



## ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>



⑩展覧会チラシ

担当学芸員による  
ギャラリートーク開催

2/11(火・祝)  
3/9(日)  
5/4(日・祝)

いずれも午後2時より



併設  
夢二カフェ 港や  
企画展  
前期 限定メニュー

「花をたづねて」

単品 ¥800  
緑茶付き ¥1000  
コーヒーか紅茶に  
変更 (HOT/ICE)  
¥1200

白玉団子が入った、温かい桜風味の白餡のお汁粉を提供します。ハート型の桜寒天がアクセントです。

展示の前・後期でメニューを変更します。



## 竹久夢二

明治17年-昭和9年  
(1884-1934)

岡山県出身の画家・詩人。雑誌投稿から明治38年(1905)末にデビューし、コマ絵や挿絵を数多く描き、センチメンタルな夢二式美人画を生み出した。画壇に属さず、日本画・水彩・木版画等で日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現した。また、詩や童謡も創作し、グラフィック・デザイナーの先駆けとしても活躍した。

展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462 fax 03-3812-0699

LINE スタンプも販売中!



FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 徳重 行

# 竹久夢二 愛と想い

作品に託したメッセージ

## 画像使用申込書



画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

### 通信欄

#### 画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。  
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

#### 読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

#### 掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 徳重宛